

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

August 2022

Écoutez Bien Vol.39 No.449

8

40周年の落語会、50周年の国文研

表紙／夏のひとコマ（曙町）



江戸に有名料理人

「料理は文化」の時代

泰平は献立を作り出し、料理を幅広い文化へと昇華させた。
その道に生きる人も登場した。それが料理人。

写真は『たまごふわふわ』と『こほりとうふ』。『たまごふわふわ』は徳川家光が後水尾天皇をもてなしたとされる当時の高級料理。それが一八一三年、大坂から江戸を経て仙台へ行って帰った旅日記『仙台下向日記』には、袋井の宿で朝食の膳にあったと記されるほど庶民の味になっていた。『こほりとうふ』は一七八二年に刊行された豆腐料理本『豆腐百珍』に紹介されている。

享和より、文化、文政の頃迄、江戸料理やに、名高き料理人をかゝへて、王子の海老屋なべ金蔵、今その種を残して、長いも、玉子焼のころ、大おん寺前田川屋の店開きは田助が名を残す、八百松は本挽町芝居茶屋高島やの五助に名を揚る、大伊の小伊のは二町まちに居て、その茶屋を繁昌させる、大坂喜八は薬研堀に見せを聞きて人をよぶ、そのまへに至りて多くの料理人有れども、名に聞こへたるは此人々にて、世の中の通り客は、料理人をたづねて、その内へ行、田介を喰に行、八百松を喰と、人をさしてたづね行しもの、今の世の中には更になし、故にその茶屋にて、高金を出して料理人をかゝへしものといふ、当節は名高きものありても、客は一向構はず、（『貴賤上下考』三升屋二三治）

価高騰がもとで江戸で大規模な打ちこわしが発生したことを教訓に、半官半民の町会所を設立して米を備蓄し、飢饉や災害による食糧不足に備える一方、没落して農村を離れ江戸市中を徘徊していた農民を故郷に帰らせ、都市の人々には贅沢を禁じて儉約を命じた。しかし田沼時代に贅沢を知った者に儉しい生活は難しい。「白河の清きに魚も住みかねて もとの濁りの田沼恋しき」、江戸町民の本音が見える。

寛政の改革で沈んだ食への思いは、化政期（一八〇四〜一八三〇年）に再び花開く。写真にある庶民の味とは別に、泰平なる江戸では高級料亭が立ち並び、有名料理人の名前が人を集めた。料理は料理の枠を超え、豊かな自然や四季と相まって、もてなしの空間を作り出す。設

いの文化を生み出した。

会席料理だけでなく、ふと思いついて食べに行っても、すぐに料理を出してくれる即席料理の店が増え、料理のバリエーションも拡大して、以前より長崎を窓口に入っていた異国料理、ポルトガルやオランダ系の南蛮料理、卓を囲む卓袱料理、精進料理に仕立てた普茶料理など、料理文化は多様化して隆盛を極める。料理屋の番付表なるものも現れて、大衆は、どここの店へ誰々の何々を食べに行くというグルメツアー。この様子は現代と変わらない。それに伴い、料理本の刊行点数も増加したそうだが、ネット上に溢れる食情報に飲み込まれる今と、これまたほとんど変わらない。日常の食、ちよつと贅沢な食、豪華絢爛な食…。都市江戸にはさまざまな階層の人々の、ふところ事情にあわせた「食」の場が準備されていたのである。



田沼意次に代わって老中になった松平定信が幕藩体制の立て直しを図って行ったのが寛政の改革。老中就任の直前に米

100年へのエントランス

国文学研究資料館

1972年に品川区戸越の地で創設された国文研。

日本文学の基盤的な総合研究機関として確かな貢献を果たしてきた。

創立50周年を迎えた今、100年を見据えてその歩みを皆で進めたいとの思いを強くしている。

■ 創立50周年を迎えて

本誌えてびあんの連載「江戸食べ物談義」(案内人は国文研の太田尚宏先生)を毎号楽しみに拝読しています。聞くところによると、編集スタッフが文章化しているそうですね。江戸の人びとの食生活(暮らし)の一端が窺えて面白い。かつて学生時代に夢中で読んだ、浜田義一郎の名著『江戸たべもの歳時記』(中公文庫、1977)を思い起こしています。

さて、わたくしども国文研は本年2022年に創立50周年を迎えました。100年以上の歴史を有する大学も多いので、それらに比べれば浅い歴史ですが、そうは言っても50年の積み重ねはやはり重い。これまでに在職された教職員の方々の努力を思うと、改めて身の引き締まる思いです。それとともに、50年後の100周年に向けての入り口に立ったのだとの思いを強くしています。この先50年のバトンを、どうやって渡していこうかと。

去る5月13日(金)と14日(土)の両日にオンラインで開催した「創立50周年記念式典」および「記念講演会」は、おかげさまで大勢の皆さまに御視聴いただきました。

まず、「記念式典」の「式典の部」では、人間文化研究機構の木部暢子機構長と国文研の渡部泰明館長の挨拶に続けて、地元立川の清水庄平市長と多摩信用金庫の八木敏郎理事長をはじめとする国文研縁りの方々に御祝辞を頂戴しました。ついで「講演の部」。田淵句美子先生(早稲田大学)の基調講演は、かの『百人一首』は藤原定家の撰にあらざとの衝撃的な内容で、その日のうちにSNSでも大きな反響がありました。続く8名の先生方による講演では、国文研の「現在」を多角的に照射していただきました。すなわち、小林一彦先生(京都産業大学)と齋藤希史先生(東京大学)は調査収集

事業(古典/近代)に関する多様な知見を、片岡龍峰先生(国立極地研究所)と小荒井衛先生(茨城大学)はオーロラと防災という異分野融合研究の成果を、ラフィン先生(ブリティッシュコロンビア大学)とアロカイ先生(ハイデル

時に託したいと思います。

■ 「こくぶんけん〈推し〉の一冊」

創立50周年記念の特別展示「こくぶんけん〈推し〉の一冊」は、来月8月末日まで開催しています。コロナ対策のために、事前予約制による(月)(水)(金)のみの開室(11時~16時)ですが、この機会にぜひ御観覧下さい(入場無料)。

展示は三部構成です。その概要を紹介しましょう。

まず第1部では、国文研に勤務する研究者が、館蔵の古典籍・古文書の中から1点をチョイ

スして、その見どころを解説しています。教員はそれぞれに思い入れのある資料を選択しており、一般の皆さまに対しては国文研の優品紹介になっていると同時に、勤務する教員のことをよく知っている学術コミュニティの研究者たちには、誰が何を選んでいるのか、関心が掻き立てられるしくみです。卷子本は書物の「格」を示していますし、冊子本は大きい小さいか、書型によって中身がある程度窺知できるのも興味深いですね。

研究者がこだわりの1点を取り上げるといふこの趣向は、実は、愛知県西尾市岩瀬文庫(林知左子文庫長)の創立100周年記念特別展『岩瀬文庫の100点』(2008年)にあやかっただけです。1908年に岩瀬弥助翁が設立した岩瀬文庫の精神に学びたいとの思いを密かに籠めまし



岩瀬文庫100周年図録(左)と国文研50周年の図録(右)

ベルク大学)は古典籍のデジタルデータを駆使した国際共同研究の魅力を、そして滝澤みか先生(青山学院大学)と河村瑛子先生(京都大学)ふたりの若手研究者は国文研の将来に対する具体的な提言をして下さいました。翌14日に行われた渡部館長と林望氏(作家)による「記念講演会」も、古典の持つ豊かさが自在に語られて、それぞれに印象深いものでした。

極端に短い持ち時間であったにも拘わらず、深みのある御講演を賜ったすべての先生方に改めて深く感謝し、国文研一同心より篤く御礼を申し上げます。コロナ禍でなければ、大勢の皆さまとともに一同に会してこの節目の「時」を体感できたものをと、改めて新型コロナウィルスを恨めしく思いましたが、対面による晴れの機会は来たるべき75周年、そして100周年の

かんさくけんいち
神作研一氏

国文学研究資料館副館長。総合研究大学院大学教授(併任)。1965年、東京都生まれ。博士(文学)(京都大学)。金城学院大学文学部専任講師・助教授・教授を経て、2011年に国文研に着任。専門は日本近世文学、特に和歌史・学芸史。月刊誌『俳句四季』(東京四季出版)にエッセイ「てのひらの江戸」を連載中。

これは『曾我物語』の丹緑本(たんろくほん)。丹緑本というのは、江戸初期の寛永から万治(1624-61)頃にかけて刊行された版本の挿絵に、丹(オレンジ色)・緑青・黄の三色をハケでささっと引いて着色したもの。古雅なる風情をまとうて好ましい。ちなみに、この写真はあくまでも撮影用。古典籍は置いて読むものであり、このように手に持ってはいけない。特殊文庫等での閲覧時には、時計も指輪も外すのがエチケット。



た。そして、この岩瀬文庫の展示図録のすごいところは、「研究者」と「学芸員・司書」が選ぶ1冊はそれぞれ33点ずつで、残りの34点を「市民」が選んでいることです。これは驚くべきことで、岩瀬文庫がいかに西尾市民に愛されているかがよくよく窺えます。

来たる2072年(!)の国文研創立100周年記念展示では、国文研の「在職教員」と「学術コミュニティの研究者たち」がそれぞれに書目をチョイスするだけでなく、「立川市民が選ぶ」コーナーがあったらいいなあ。学術コミュニティに留まらず、Jリーグの100年構想のように地域密着で愛される存在になっていて欲しいと強く願います。そういう意味では、多摩信用金庫と締結した「協定」に基づいて2019年に設立した、多摩学術文化プラットフォーム「ぶらっとこくぶんけん」は、文字通り多摩地域への学術文化に関

のもとに、喜多川歌麿の多色摺り狂歌絵本『画本虫撰』や『銀世界』、榊原本『源氏物語』、嵯峨本『方丈記』などの高名な(高価な)書物が居並びます。これはまさに「ゴージャス」のひと言に尽きましよう。最後の第3部は「国文研のこれまでとこれから」。50年にわたる国文研の「生い立ち」と「将来」を見据えます。

■ 「てのひらの江戸」

私は何げない日常を切り取ったヨーロッパ映画が好きですが、でも頻繁に出掛けるのはやはり美術館や博物館の展示ですね。展示は担当する学芸員たちの腐心苦心の結晶であり、最先端の研究成果が分かりやすく示されていて、

どれもこれも楽しく学んでいます。

最近見た中では、千代田区立日比谷図書館で開催されていた特別展「鹿島茂コレクション2『稀書探訪』の旅」が素晴らしかった(5月20日~7月17日)。フランス文学者の鹿島先生

ようでした。連載原稿をまとめたこのたびの月刊『稀書探訪』(平凡社、2022)を改めて通読してみると、古書収集にまつわる悲喜こもごもが鹿島先生の軽妙な語り口で綴られていて、珠玉にして異色のフランス古書案内になっています。オススメです。

カラー図版を見開きでどーンと配置して、文章は少なめに抑えてその資料の魅力を簡潔に語るこのような連載を、いつか自分も日本の古典籍でやってみたいと、ずうっと温めておりました。これが、現在『俳句四季』(東京四季出版)で連載中の「てのひらの江戸」です。「古典籍を旅する」との副題を添えて連載を開始したのが2020年4月号。読者は俳句の実作者の方々ですから、当初は松尾芭蕉の生涯を「俳書」に即して辿りました(全16回)。そして現在は、ホノルル美術館に所蔵されるリチャードレインコレクションの絵入り本を取り上げながら、古典籍の魅力を短文で紹介する「旅」が続いています。改めて、ホノルル美術館のノートン ウェストブルック館長・ショーン部長・南清恵リサーチアシスタントをはじめとする関係各位と、日頃の国際共同研究で多大の学恩を蒙っているハワイ大学マノア校のロバート ヒューイ名誉教授とバゼル山本登紀子名誉司書ほかの皆さまに、深く感謝いたします。

今後も、「江戸に即して」「古典籍に寄り添って」、楽しみながら研究を続けていきたいと思っています。本日はありがとうございました。



「てのひらの江戸」より ねずみ算の『應劫記(じんこうき)』(『俳句四季』2022年2月号)(左)
(右)はホノルル美術館のメインエントランスおよび中庭 ブーゲンビリアが咲き誇る(『俳句四季』2021年8月号) 東京四季出版

する貢献を目的としていますから、これからいよいよ重みを増してゆく意義深い営みなのだと思っています。

ついで展示の第2部では、「国文研をひらく」と題して、「挿絵を楽しむ」など7つのコーナー

が12年都合144回にわたるANAの機内誌『翼の王国』の連載で採り上げたさまざまな書物がところ狭しと並べられていて、圧巻でした。地誌や風俗画、風刺画入りの新聞などなど、まるで19世紀のフランスにタイムスリップしたかの

寿・創立四十周年

第八十回の落語会

支えてもらって四十年、感謝感謝でございます

四十年といえはすごいですよ。おぎやあと生まれた子どもが四十歳になっちゃうんだから。四十歳だった人は八十歳になっちゃう。そう思っただけで、メンバーが年取ってないのはいくらもだぜだ？



六助さんと小はくさんの南京玉すだれ

南笑さんと夢子さんの漫才



第15代会長 立川亭欽七さん

立川亭六助さん

立川亭夢子さん

立川亭小はくさん

立川亭南笑さん

立川亭みたまさん

昔家志之助さん

立川亭志ん士さん

立川亭ホ蘭さん



10周年

えくてびあん 1991年12月号の記事



20周年



30周年



40周年



裏に回れば、太鼓も叩けば出囃子も流す



2015年4月総見の様子

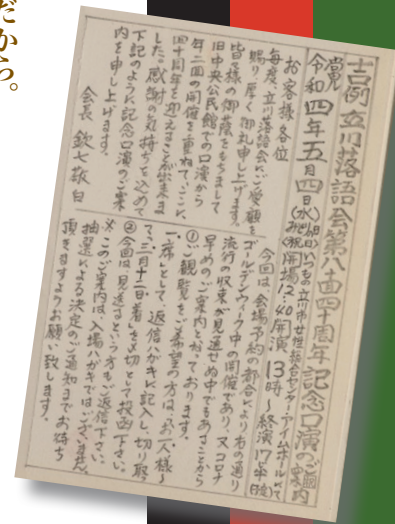
昭和七年東京都出身
昭和三十三年三代目三木助に入門
昭和四十九年真打昇進
平成十四年より立川落語会最高顧問として
落語会メンバーを指導して下さっている。



三遊亭圓輔師匠

素人だからと侮るなかれ。この人たちは、四十年（それ以上の人もいる）も落語を演じてきているし、お呼ばれして落語を披露もしているのだから、もう半分名人。落語家じゃないというだけで、落語は上手い！話すだけじゃない。扇子を使ったり、手ぬぐいを使ったりものに見立てた仕草だったり、顔を左右に向けて演じ分けたり。稽古をつけてくださる三遊亭圓輔師匠がいてくださって今がある。とはいえ、木戸に立つことから太鼓にメクリ、なんでも自分たちでやるのだから、これは大変。好きこそものの上手なれ。これからも、皆さんお元気で、さらにご精進くださいませ。

令和四年五月四日（水）。いつものように立川市女性総合センターアイムの一階ホールで、記念すべき第八十回立川落語会が開催されました。おなじみのメンバーがとつかえひつかえ笑わしてくれるのだけれど、この日はすごい！特別なんですね。開口一番で話したのはみたまさん。なんとオチで頭を下げた後、紙切りをして見せる。上手いのか下手なのか、落語と一緒によくわからない。メンバーが揃ってかっぱれを踊ったかと思ったら、今度は六助さんと小はくさんの南京玉すだれ。本当はもつと上手らしい。結婚式の余興でもやっているくらいだから。中入り後、今回は被り物のない大喜利だなぁと思っていたら、なんと漫才の登場だ。南笑さんと夢子さん。夢子さん、そんなに下がって行っちゃったら漫才になんないでしょ、なんてツッコミ入れている間に、早やトリ。小はくさんが『船徳』を演って、コロナを乗り越え八十回を終了しました。



えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 錦町・柴崎町・立川市外 のお店です。	
錦町	元祖 5 本指ソックス専門店 LASANTE 540-1616 ホテル日航立川 東京 ……521-1111 美容室 アリス ……525-1100 FALCO hair ……528-2389 N HAIR WORLD ……523-5336 創作料理 caffe & bar 厨～kuriya～ 595-7449 立川駅泌尿器科皮膚科クリニック 548-8802 TTM (株) ……524-5787 Bakery Café Crown ……526-2226 日本空手道 佐藤塾 ……548-7460 三田花店本店 ……524-4187 いわさき痛みの整骨院 ……529-5123 にしや薬局 ……525-9212 たましん RISURU ホール…526-1311 たましん 錦町支店 ……528-0511 カレー店 CHOTA ……525-1004 パン工房 グラーティア ……512-8667 そば処 高尾亭 ……522-2710 Natural Food Restaurant シェいなば 529-5921 Garden & Crafts café 0120-412-877 至誠学舎立川 ……527-7734 至誠ホーム ……527-0031 至誠介護相談センター ……527-0321
柴崎町	諏訪神社 ……522-2968 毎日新聞社グループ (株) 毎日広告社 522-6121 パスタビーノ はしや ……521-3386 高島ビル ……526-0111 Hair Room MOON ZETTON 523-0961 南武堂剣道具店 ……527-0197 ビジネスホテル 小沢屋 ……523-0388 おしゃべりカフェ トーク・スペース 527-1636 ESBI 立川南口店 ……526-2947 (株) 一心堂 ……527-3777 すがの歯科 ……540-2675 あすなろクリニック ……529-2756 ビストロこづ ……525-9929 入船茶屋 ……524-6266 串場割烹 トントン ……524-4521 不動産 コマツホーム ……525-5811 芹沢ガラス店 ……522-3065 かみゆい処 わ ……522-8202 ファッションハウス ホマレヤ 525-2788 ホテル ほまれ ……523-0588 ヘアーサロン オオヌキ ……528-0809 中国四川料理 山城 ……512-8356 酒歩 たから ……528-1510 リサイクル着物 着楽堂 ……523-9702 天婦羅・うなぎ 良銀 ……522-6702 ギャラリー きらら ……522-3913 生活雑貨 EAST END ……523-9636 特むし銘茶・海苔 菊川園 ……526-2035 ジョイフルプラザ ……0120-29-2775 めん心 堤屋 ……525-6602 hoccori* café ……595-8379 立川わかば整骨院 ……526-8518 中華小皿料理 得得屋 ……528-1060 Fashion You Me ……523-1640
立川市外	昭島市 ECO'S 昭島店 ……546-3710 武蔵村山市 中国料理 菜 ……561-7233 国分寺市 パンの店 fermata ……534-3334



真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄は
 スマホアプリ「スカパー！番組表」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

TOPICS OF TACHIKAWA

立川飛行場創設100年



立川飛行場 上空より

1921年2月に始まった陸軍航空第五大隊敷地選定は、選定委員会が6月に陸軍大臣に選定地「東京府北多摩郡立川村字原市場西北部」を報告。今の立川の原点——立川飛行場がここに始まります。秋頃から敷地買収が開始され、翌1922年3月に地鎮祭が執り行われ、8月に飛行場として概ねの完成をみます。2022年8月は、立川飛行場が開設されてちょうど100年にあたるわけです。

飛行第五連隊が移駐してくると、陸軍航空本部技術部などの役所や飛行学校、定期航空などの民間航空、4年後には石川島飛行機製作所（後の立川飛行機）などのメーカーもやってきて、人が集まり経済が回って、立川は「空の都」へと成長していきます。陸軍部隊駐留が当初の目的ではありませんでしたが、それよりも陸軍航空本部技術部や飛行機メーカーの存在が、立川を「軍都」であるより先に「航空技術のメッカ」とし、モノづくり立川の根っことなっています。操縦技術を学ぶ大学生が集い、小説家などの文化人も飛行機を利用していました。現代の滑走路とは程遠い草むらのようなところから、多くの人の希望や夢、喜びを乗せて飛行機は飛び立ったのです。

1929年には「東京飛行場」となり、軍官民の航空施設が併存します。1931年8月の羽田飛行場開設までの間に、東京の空の玄関としての立川へ多くの外国機が飛来しました。訪日機への記念贈呈品には、立川町から邨田丹陵の日本画が贈られることが多くありました。「和」を象徴するような昨品が喜ばれたようです。

何もない農村に鉄道が敷かれ、その鉄道があるがゆえに飛行場がやってきて、今があります。

※考証・出典：横川裕一氏



飛行場敷地として買収された敷地一部 当時の様子

※石川島飛行機製作所は1924年創業、立川工場建設着手は1926年12月。



飛行場敷地内に建てられた施設建物の一部 立川飛行第五大隊本部



飛行場開設に4年遅れて月島から移ってきた石川島飛行機製作所の建物

ウクライナ復興人道支援チャリティーコンサート「ウクライナへの想い」



ナターシャ・グジー

ウクライナ出身の歌姫 ナターシャ・グジーさんが、ウクライナへの想いを込めて演奏します。コンサートの公演収益は国連UNHCR協会を通して、ウクライナへ復興人道支援の為、寄付されます。水晶の歌声とバンドウーラの響きをお楽しみください。

公演日時：2022年8月17日（水）18：00開演
 会場：たましんRISURUホール大ホール
 チケットの申し込み、お問い合わせは、チケットびあ、たましんRISURUホール TEL 042-526-1311
 有限会社かわむら TEL 042-523-1827
 （10：00～17：00）
 詳細は多摩てばこネットへ



多摩てばこネットはこちらから

IKEA 立川から中央図書館に家具寄贈

7月4日、中央図書館において。立川市からIKEA 立川に感謝状が贈呈されました。昨年10月、立川市とIKEA 立川は、それぞれの資源や特色を生かしながら、多岐にわたる分野での市民サービスの向上や地域の活性化、サステナビリティの推進を目的として、包括連携協定を締結しました。その最初の取組みが今回の中央図書館への家具寄贈です。図書館へは、若い世代から学習スペースをという要望があり、本年1月よりIKEA 立川が市民のニーズを実際に調査するところから始まり、どうしたらより機能的に、より快適に学べるか、時を過ごせるかを検討。この度、中央図書館3階旧映像資料視聴席と視聴覚資料コーナーの一部がすてきな空間「くつろぎ読書学びコーナー」に生まれ変わりました。円柱を違和感なく囲むCD棚。人の視線を感じることなくくつろげるソファ。その他学習机や椅子、照明器具など約200点が寄贈され、柔らかな雰囲気を作りだしています。

これからもいろいろな面で充実した連携が行われていくといいですね。

コード類もきれいに収納されています



カーブに沿って収納されるCD

Twitterで爆発！シネマシティのクッキー



現在はプレーンのみ。岩塩の塩味が効いています。

今、立川で話題のクッキー、ご存じですか？シネマシティ・ロゴクッキー。とにかく大きい。本当はもっと大きく作りたかったそうですが、それでも1人では食べきれない。オシャレかと聞かれれば、首をかしげたくなるけれど、何より立川っぽい！映画の街立川のお土産に、もはやこれ以上のものは無い、という声もあるほど。シネマ2のみで販売中。毎日お店で焼き上げるクッキーは、ドリンクとセットで650円、単品だと420円です。厚みは8mm。シネマカフェ元店長の力作です。

表紙

令和に昭和の夏を見る

「平成レトロ」という言葉があるそうです。子ども時代に平成カルチャーを実体験として持っている人が懐かしいと感じるもので、その世代のことをミレニアル世代というのだとか。「平成レトロ」を新しい!と感じるのがZ世代。誰でも振れる安価なレンズ付きフィルムカメラは、ミレニアル世代には懐かしい。その画質の粗さがZ世代には新しい。スマホはきれいに撮れますものね。

アプリの時代に、曙町で見つけたブリキの金魚。まさに「昭和レトロ」の代表格です。その奥に、いわゆる「古き良き時代」が広がっているように感じます。ブリキのおもちゃは、いつのまにかプラスチックや塩ビに取って代わられました。飛行場の町立川には、他とは趣が異なるレトロがあります。失われつつある立川らしさ、大切にしていきたいですね。

かたこと

◆「猛暑」「酷暑」が、もしかしたら「記録的大雨」も予想される中に、感染者数が増えていくのでしょうか。いろいろなものの値段が上がり、どっちを見ても気の抜けない、暮らしぶらい夏になりそうです◆水が恋しい季節ですが、今年も国営昭和記念公園のレインボープールは老朽化で営業中止です。その代わり、小さいお子さま向け水あそび広場を開放してくれるそうです。GREEN SPRINGSでも芝生広場にプールが並び、流れる水にも子どもがいっぱい。例年、空につながる広い空間が狭く感じられるほどの賑わいになります。くれぐれも水の事故には気をつけて◆今号がお手元に届くと、夏休み！統計数理研究所では、子どもも大人も楽しく統計にふれることができるコンテンツをまとめています。その名も「すーりん、けいとの『統数研の部屋』」。まんまじゃん！なんて言わないで、ちょっとのぞいてみてください。算数や数学の魅力が見つかるかもしれないし、将来にとっても役にたつ、そんな「子ども見学デー」になっています。また国立極地研究所の南極・北極科学館は7月から開館日が毎週火曜、水曜に変更されていますが、予約はなくなり自由来館できるようになっています。開館日カレンダーをご確認の上、マスク着用・手指消毒など感染防止対策を忘れずに◆暑さにも感染症にも負けないで、でも体は大切にして夏を乗り切りましょう。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑨

8月号 第39巻 通巻449号

令和4年8月1日発行
 発行 有限会社えくてびあん
 〒190-0023
 東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
 TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
 E-mail message@tamatebakonet.jp
 URL https://www.tamatebakonet.jp
 発行人 黒須 環
 企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
 デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
 印刷 ダイオーミウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。



ワイルドストロベリー、ナズナ 店内で 花、花器とも大森良子

私の立川 私と立川

4

スーパカフェ なんでもない日の穏やかな日々

『なんでもない日』の店内には絵本がたくさんあります。いつのまにか集まってきた本たちは、棚や机の上に並べられ、誰でも自由に読めるようになっているので、お父さんや母さんがお子さんに絵本を読んであげる姿がよく見られます。

読み聞かせの時間はとても特別に感じます。読む人の優しい声のトーン、絵本の物語を共有している時間、物語はその子のためだけのお話になって、すべてが素敵だと思います。

私にも、子どもの頃に読んでもらって印象的だった物語があります。飢饉が起きた森で、主人公のリスが誰にも見つからない所に植物の種を植える話。口に種を含んで運ぶので、あの子はいつも食べ物食べていると、勘違いした森の仲間から疎外されてしまう。空腹の中、たった一匹でいずれ食べ物に育つ種を植え続ける。悲しい面もありますが、不思議と心に残って、今でも思い出すことがあります。

子どもの頃に読んでもらった物語は、大人になってからも心の底に残って、生きていくための糧になるのだと思います。